

外房法友会

法政大学校友会
外房法友会 会報
第 21 号

発行所 法政大学校友会 外房法友会
発行人 古山 弘
〒299-4415 長生郡睦沢町小滝475番地1
TEL 0475-44-1869

総会報告：地域でがんばるの会員を応援

令和5年7月15日、令和5年度総会を開催いたしました。今回は4年ぶりに来賓の方にもお出でいただき本来の形での総会となりました。総会では、令和4年度の事業・会計・監査の報告、令和5年度の事業計画と各議案を審議し了承されました。

第二部では「瑞沢川に鮭の稚魚を放流する会」の会長で外房法友会会員の松本敏男さんに会の活動報告と題して講演いただきました。会は、睦沢町の地元を流れる瑞沢川にかつて遡上してきたといわれている鮭が再び戻ってくるような環境造りと放流活動を十数年にわたり続けて来ました。最初は地元の小学生と一緒に、12月から鮭の受精卵を水槽で飼育し、2月に学校近くの川に放流するという活動を始めました。この活動が各方面の共感を得て、今ではその輪が全県下に広がり2月の放流日には県内各地から育てた鮭の稚魚を持って多くの人が集まります。会では、単に鮭の回帰を目指すのではなく、この活動を通して自然の大切さを広く知ってもらいたいとしています。

外房法友会としても、この活動を積極的に応援していきたいと考えています。ただ、残念な事に昨年秋は日本の川に遡上してくる鮭の数が極端に少なく、例年受精卵を譲り受けていた新潟県の漁協から頂くことが出来ず、やむなく飼育・放流を断念しました。今年の秋にはなんとしても受精卵の確保をし、今までどおり飼育・放流が出来ることを願っています。

第三部の懇親会では法政大学校友会県内他支部の方々とも久々の懇親を深めることが出来ました。今年も7月13日に総会を予定しています。年に一度の総会です。同窓生との懇親を深め、また県内他支部からお出での方との情報交換も出来、最後に肩を組みスクラム校歌を歌えば最高です。明日からの活力の源となる「外房法友会総会」へぜひご参加下さい。

外房法友会会長 古山弘

鮭の稚魚を飼育



→
卵からふ化



→
放流直前



←
学校の廊下で
飼育する生徒
たち



←
2月に瑞沢川
へ放流

第29回法政大学全国卒業の集い 倉敷大会

成嶋 まさる

法政大学の全卒業生を対象にした全国卒業生の集いが、2023年11月に倉敷市で開催され、外房法友会からは、古山会長ご夫妻、花澤先輩、成嶋夫婦の5名が参加しました。全国卒業生の集いは、全国各都道府県持ち回りで毎年開催されており、成嶋は、宮崎大会、千葉大会、徳島大会、栃木大会そして倉敷大会と5回連続の参加となります。倉敷は地名としては当然知っておりますが、倉敷どころか岡山県にも行ったことがなく、今回が初めての倉敷旅行となります。事前に観光雑誌を買って予習すると、倉敷美観地区というエリアが人気との事です。

「倉敷美観地区では、白壁の蔵屋敷、なまこ壁、柳並木など、趣ある景観が楽しめ、伝統的な建物が作り出す町並みや、倉敷川沿いのレトロモダンな風景が、世界中の人を魅了し続けている」との記載があります。なまこ壁、レトロモダンとは、なんだかよくわかりませんが、人気があることだけはよくわかりました。

幸い、倉敷大会も、倉敷美観地区で開催されますので、まずは倉敷美観地区の見学をしました。当日は11月と思えぬ暖かさで、外国人も含め多くの人でにぎわい、暑いくらいです。人込みを避けるように、「倉敷美観地区」のメインの一つである大原美術館に入りました。美術館ならすいているだろうと思ったところ、意外にも多くの人がいきました。大原美術館には、昔教科書で見たような絵画が多数あり、大変勉強になりました。残念ながら大原美術館には喫茶店がなく、近くの喫茶店に入ったら、コーヒーは非常に高額でした。近年では、北海道のニセコで、外国人相手にラーメンが何千円もするとも聞きます。倉敷のコーヒーもインバウンド価格なのかもしれません。茂原とは少し異なるようです。

倉敷大会では、最初に記念講演がありました。観光の予習はしたのですが、倉敷大会の予習はしていなかったもので、講演が始まるまで、講演者を知りませんでした。講演者は、大原美術館代表理事の大原あかね氏です。この講演を聞いて、法政大学大原社会問題研究所、大原美術館、大原家の関係を知ることができました。大原町があった千葉県で育った成嶋は、大原は地名と思いこんでおり、大原美術館の大原は人名由来と知り、本当に勉強になりました。今回の旅行は勉強になることばかりです。

講演の後は、食事歓談しながら、倉敷天領太鼓、老人の面をかぶった若者が渋うちわで頭をたたく倉敷素隠居（すいんきょ）、演舞の「うらじゃ」などのアトラクションがあり、応援団演舞、校歌斉唱でお開きとなりました。

日本には43県ありますが、成嶋は行っていない県が数多くあります。兵庫県、山口県には行ったことはありますが、その間の岡山県、広島県には行ったことがありませんでした。今回、岡山県に行く機会ができて良かったと思います。倉敷大会がなかったら岡山県に行くことは、当分なく、大原美術館にも行かなかったと思います。残念ながら、広島大会は1990年に開催済みですが、今後、全国大会が開催されるであろう三重県、和歌山県、佐賀県なども、成嶋は行ったことがないので、開催の際には、参加が楽しみです。

2024年10月に秋田大会が開催されます。秋田には何回か行っており、初めて行くときめきはありませんが、お酒、食べ物がおいしい県でもあり、参加するつもりです。皆さんもぜひご家族で参加を検討されてはいかがでしょうか。



左はうらじゃの女性です

(昭和57年 法学部卒)

芭蕉論 (三十一)

渡辺光夫

「芭蕉(上)(下)」

栗田勇著。祥伝社発行。B5版。上巻七四九頁・下巻五〇一頁。平成二十九年発行。

栗田勇。昭和四年東京生まれ、東京大学卒業。

文学・演劇・芸術等の分野において、創作・評論活動を展開。著書多数。

芭蕉の句は、なぜここまで日本人の心に響くのか。その旅の生涯と、精神性の深奥をたどり創作者としての全人像に迫る。執筆十年、著者畢生の大業、ここに完成した。

本書は月刊誌「小説NON」(祥伝社)に二〇〇七年十二月号から二〇一七年一月号まで、一〇四回にわたって連載された「芭蕉の俳」に新原稿を加え、補筆再理の上、上下二巻にまとめたものである。

芭蕉の旅の生涯と、精神性の深奥をたどり、創作者としての全人間像に迫る。

藤堂家に仕えた伊賀上野の少年時代、革新的句集「貝おほい」を引っさげて江戸に下り、職業俳人としての道を歩みはじめた芭蕉が、「野ざらし紀行」「鹿島紀行」「笈の小文」「更科紀行」の旅を通して到達した前人未到の句境とは。

ヴェールに覆われた芭蕉の実相(著者のことば)。

「俳人としての芭蕉には、天性の才能に、技巧の老練を加えた上に、さらに、もう一度、大きな秩序の意識がかぶさっていた。それは今日風にいえば四季のめぐりであり、仏教でいえば輪廻であり、それが連句の構造力の根底をつらぬく美学ということになるだろうか」。

芭蕉におけるミクロとマクロ

永遠について

「五月雨の降り残してや光堂」
中尊寺の光堂は簡素な外観にも拘わらず内陣の絢爛たる金色のエネルギーの渦巻を想起させる。その内部空間は建造物の大小にかかわらず、濃密なるミクロ(micro)と呼ぶことが出来る。

反対のマクロ(macro)の句

「暑き日を海に入れたり最上川」

この句は少年の頃から惹きつけられたランポオの詩句「永遠」を思い出せる。

基本的には言葉を超えた所に、人間はミクロの極とマクロの極とを直観し、あるいは体感しているといってもいい。

問い、求めつづける究極の地というものがあるとするれば、それは恐らくマクロとミクロという相反する観念が、永遠の彼方で一致融合する極点である。

今日まで そして明日からも

岡安秀二

2023年7月28日 11時15分頃 山頂着。周囲に多少の雲あれども晴れ。

真っ青な空、白い雲と残雪、緑の絨毯を敷いたような山肌。足元から遠く離れた小ピークの向こうまで延々と続く緑と灰の稜線 その背骨部分に白い登山道がうねうねと開かれています。360度のパノラマ 北アルプスの名峰槍ヶ岳他 名だたる峰々を拝め、言葉を失います。

ヘッドライトを頼りに3時45分頃 馬場島の登山口を発して、ようやく辿り着いた“試練と憧れ”の山 その頂。実に長かったあ

山頂にいる登山者の多くは落ち着きなく動きまわっています。風景を撮っています。山名表示板を手にとって記念撮影しています。湯を沸かしています。ザイルを点検しています。他のパーティーに話しかけています。「どのルートで?」「別山尾根です!」発する声が上ずっていて 皆さん登頂の喜びで興奮を抑え難いのが伝わってきました。そんな空気の中で意外と冷めていた私も、何やら胸を突き上げてくるものを感じてきていました。

“試練と憧れ”の山 劔岳(標高2,999m) 富山県の馬場島(標高750m)から北アルプス三大急登の1つ早月尾根を往復しての日帰り登山をぼんやりと目論んだのは、2016年のことでした。

計画した最初のアタック予定日は翌2017年7月28日。以後 毎年“梅雨明け十日”を狙って、7月最終の金曜日にアタックとして計画してきました。残念ながら“梅雨明け十日”という言葉は、気候変動激しい昨今では通用しませんでした。アタック予定日前に梅雨は明けるのですが、計画はことごとく台風や雨に挫かれてきました。2019年は、仕方なくお盆過ぎに比較的近場の山梨県 尾白川溪谷から日本三大急登の1つ黒戸尾根を往復しての甲斐駒ヶ岳日帰り登山。累積標高差はむしろこちらが上、よい想定訓練にはなりましたが、、

2020年からはコロナで見送り。ようやく世の平穏と天候という重要条件が整ったのがこの年2023年でした。

話をアタック当日に戻します。同行の一人がばてたため計画上の下山時刻を大幅に遅れ、再びヘッドライトで登山道を照らしてひた歩き。出発から凡そ16時間半後 飲料水も底を尽きかけた20時15分頃 無事 馬場島に下山。実に足掛け7年での成就となりました。人生においてここまで執念深く物事を追いかけたことはありませんでした。臥薪嘗胆したら叶うことも本当にあるんですね。

2023年は、他に北海道の7座、近畿・北陸の5座を合わせ、日本百名山を13座登ることができました。残す百名山は21座ですが難易度の高い山が残っています。今年もしっかり稽古して各地名山の頂に立ち、五感で山登りを堪能したいと願っています。

同級生の多くは現役で仕事を続けていますが、夏山シーズン以外の平日は、へぼな私の相手をしてくれる兄さん・姉さん方が待つテニスコート通いの毎日です。土日祝日は荒天でない限り妻が好きなウォーキング。GW、盆、年末年始などは大寺、大社、城址、城下町、宿場町、庭園、重伝建(重要伝統的建造物群保存地区の略)なんかを組み合わせてほっついています。こんな歩きには日本人のアイデンティティーってのを感じます。県内では公園、あぜ道、林道、別荘地などを季節の移ろいを楽しみながら歩いています。

移動手段と宿泊にはキャンピングカーを使っています。ワンコ連れでの旅になるので、はなからホテルなどは使えません。もっぱら車中泊旅です。

2022年5月で生業(月給鳥)にはきっぱり幕を引き、好きなことだけするんだと自分に言い聞かせるように暮らしています。(右ページへ続く)

こんな暮らしを選択したのは、中年あるあるの健康問題です。2018年腎がんの最初の手術を受けました。早期に治療でき安心していましたが、2年も経過しないうちに腎臓周辺にがんが転移していました。化学療法、免疫療法も試みましたが、辛かっただけでした。

それでも拾う神はいました。2021年11月 ステージ4を引き受けてくれるブラックジャックの執刀を得て繋いだ命です。今も腹にがんを抱えています、幸いに進行が遅い性格がよい子のようにです。

今年も間もなく夏山シーズンがやってきます。シラビソの香りと野鳥のさえずに包まれながら汗して歩く。そんな姿を思い浮かべては、にやつく私です。

(昭和56年社会学部卒)

波の伊八の足跡をたどって

令和5年12月16日房総の名工「波の伊八」の作品を訪ねる研修会を開催しました。伊八は安房鴨川の出身ですが、長生・夷隅地域にも弟子の作品も含めて多くが残っています。

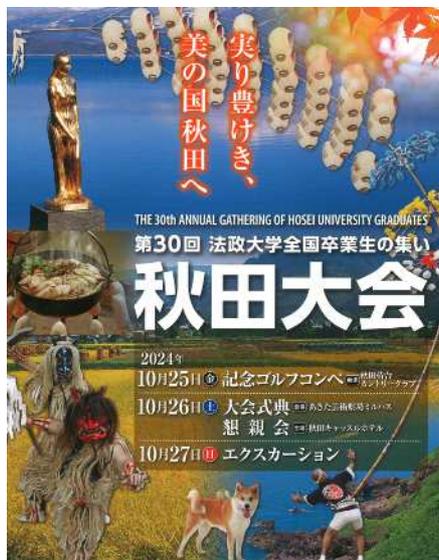
コースは 飯縄寺(いすみ市岬町和泉) → 行元寺(いすみ市荻原) → いすみ市郷土資料館(いすみ市弥正) → 八坂神社(睦沢町上市場) → 成就院(睦沢町上市場)の順で回りました。睦沢町学芸員の山口文氏に同行・解説をお願いし、見ただけでは分からないものも理解することが出来ました。山口氏には今年の総会後の講演会で、「上総介広常」についての講演をお願いしてあります。また一つ故郷の歴史に触れることが出来ると期待しています。



飯縄寺本堂



八坂神社本殿



全国卒業生の集い秋田大会

30回目となる「法政大学全国卒業生の集い」は今年の10月に秋田で開催されます。本誌2面には昨年の倉敷大会の様子が書かれていますが、参加してみたいかがでしょうか。校友会の終身会員になっている人には6月か7月頃には案内が届くと思います。外房法友会にもある程度の部数が送られてまいりますのでご希望の方は古山までお申し出下さい。参加の仕込みと同時に宿泊するホテルの手配もしてくれます。また最終日には秋田の同窓生の案内で県内を巡ることも出来ます。

古山TEL 090-3431-8454

目から鱗の講演会

海老根 秀昭

時代が令和を迎える1か月前に教員を定年退職し、今の仕事の一つに御宿町社会教育委員長の役目があり、6年目を迎えています。

令和5年10月13日(金)の話題をささやかですが、お知らせします。この日は、「第58回 夷隅地区社会教育振興大会」が開催され、株式会社ヘルシーピット代表取締役の杉本恵子氏が、『幸福の口福のお話 杉本恵子の食材5色バランス健康法』の演題で、ご講演されました。

杉本氏は、管理栄養士であり、「食事」「運動」「休養」の3点から一人一人に適した健康作りを提唱し、実践している方です。お話の中で、法政大学野球部の話題が出されました。健康管理を9年間担当され、この9年間で9人のプロ野球選手が誕生したそうです。法政大学野球部の選手達は、才能にも恵まれている優秀な人材ですが、小学校・中学校・高校の時から栄養についてもっと心がけていけば、さらにすごい選手になっていくのではないかとのことです。

それは、杉本氏が掲げる「食材5色のバランス健康法」にその訳がありそうです。面倒な栄養価計算はいらず、食材を見た目の色で5色(赤白黄緑黒)に分けて栄養を考えることが特徴です。

「赤」の食材は、肉や魚、緑黄色野菜など。「白」の食材は、ごはん、うどん、乳製品、野菜など。「黄」の食材は、卵、大豆製品、野菜、果物など。「緑」の食材は、野菜、果物など。「黒」の食材は、海藻、きのこ、黒豆など。注意点として、例えば、りんごは、食べる比率の大きい内側の「白」に分類します。なすも「白」になります。きのこ類や海藻類は、「黒」に入れます。但し、えのきなどのように真っ白なものは「白」に入れます。

そして、野球部の選手は、(株)ヘルシーピットで手作りの「さつま芋ソースのカップケーキ」を練習後に、捕食として摂っているそうです。また、海藻、きのこ、黒豆などの食物繊維やミネラルが豊富な「黒」の食材を最も意識して食べてほしいと強調していました。

「すべての病気は、腸から始まる」と言われます。腸が元気だというんちが出ます。うんちは、「大便」と書くように、体の健康状態を知る「大きなお便り」だそうです。

杉本氏の思いは、「1週間のうち5日は、良い食べ方をしましょう。」ということです。すなわち、「1年間で、5日×4週×12か月=240日は、しっかり栄養を確保してください。」とのことでした。まさに目から鱗で、実践をし易い納得のいくお話でした。この講演で我が母校、法政大学の話題に接するご縁がありましたので、今回の記事としました。最後に、杉本氏の著書を以下に紹介します。(昭和57年3月 工学部卒)



「法政大学野球部は、六大学野球の平成30年秋季リーグ戦で6年ぶり45回目の優勝を果たしました。食習慣を見直したことなども契機になったようです。」

中年から始めたランニング

井田 源

拙い文章であり、また私個人の趣味の話となり恐縮ではございますが、しばしお付き合いいただきましたら幸いです。私は平成3年4月に法政大学経営学部へ入学、平成7年3月の卒業まで市ヶ谷キャンパスにて4年間在学いたしました。高校時代は部活で水泳をしていたこともあり、法大在学時も水泳サークルにて活動をしておりました。私の身長は171cmですが、在学当時は水泳をしていたこともあり、また若年だったこともあり体重は60kgと非常にスマートな体型を維持できておりました。しかしながら卒業後社会人となり加齢が進むとともに、体型の維持ができず体重は90kg近くに、また健康診断の数値も年々異常値の項目が増えてまいりました。

そのような私がジョギングに出会ったのは2014年 41歳の時でした。当時は健康上の心配はもとより、仕事上でも多くのストレスを抱えている日々でした。そんな時に法大経営学部で同級だった友人の高橋君とお酒を酌み交わす機会があり、彼が以前から趣味にしているランニングを奨められました。生まれてから当時まで、私は陸上競技を真剣に取り組んだ経験はありませんでしたが、「ものは試し」とばかり少しだけ走ってみました。本当に少しだけ、近所の公園で週末に2km程度。当初は走り慣れない体で2kmを走るのも大変でしたが、走り切った後の爽快感たるや、大いに日々のストレスが発散でき気分転換となりました。

その後はランニングの距離も徐々に伸ばしていき、2016年11月に睦沢町で開催された健幸むつぎわロードレース 5kの部でマラソン大会デビューをいたしました。翌年の健幸むつぎわロードレースでは距離を伸ばし10kmの部を走りました。またさらに翌年2018年の秋には、仕事の得意先がちばアクアラインマラソンのスポンサーになっていた関係もあり、スポンサー枠でハーフマラソンの部に参加、初のハーフマラソン挑戦ではありましたが無事完走することができました。その年は好天にも恵まれ気持ちよく走ることができ、普段は自動車でしか走ることができない東京湾アクアライン上を自分の足で走りながら景色も満喫できるという貴重な体験ができました。

その後はコロナウイルス流行などもありマラソン大会に参加をできておりませんが、今でも週末を中心にランニングをしており、1カ月あたり40km程度は走っております。今年2024年の冬こそは千葉県内のどこかの大会でハーフマラソンに再挑戦をしたいと思っております。

私自身中年になってからですがランニングを始めることができたことは、日々の気分転換に大変役立っております（食べすぎ飲みすぎもあり体重はあまり変わっておりませんが・・・）。今年で51歳になりランニングを始めて10年経ちました。中年になってから出会うことができたランニングをこれからも趣味の一つとして楽しんでいくという気持ちを新たにするとともに、そんなランニングとの出会いを作ってくれた法大の旧友の存在に改めて感謝をしたいと思っております。



(平成7年経営学部卒)

ちばアクアラインマラソン2018
(ハーフマラソン完走)

「法政大卒」が与えてくれたこと

秋山 貢輔

令和元年度総会から「外房法友会」に参加させていただいております。鴨川市在住(旧天津小湊町出身)の秋山と申します。

実は、私にとっての「法政大学」は、皆様のように誇れる思い出ではないのです。

それでも、このような形で、懐かしい時を振り返る機会をいただけたことに感謝申し上げます。

1993年がバブル崩壊の末期とすると、私が1浪して経営学部に入学したのが1995年春、その年の1月には「阪神、淡路大震災」の発災と、「団塊ジュニア」の最後の世代となる私達には、先の見えない、前途多難な学生時代だったと思います。

自分が入学した経営学部だけでも、学年1000人近い学生がいましたが、「とりあえず六大学の法政には合格した」というような緩い雰囲気や、「何か違う」と、感じていた自分がいたと思います。

長生高校の野球部の後輩が、現役で明治大学の野球部に入ることになり、彼から明大野球部の厳しい環境の話や、「自分も、自分の進むべき道を早く見つけなくては」と、強く思ったことを覚えています。

1年生の後半からはアルバイトで始めた教育関係の仕事に熱中し、2年生が終わってからの2年間は、休学して名古屋に支店長として勤務した時期もありました。

そこで、「世の中の厳しさ」、「若気の至り」と、当時を形容する言葉はいろいろとありますが、「大きな失敗」をして、また、法政大学に復学することになります。

今思えば、失意の中復学した自分を、年の離れた同学年の仲間が、「すげー経験じゃん」と、笑って付き合ってくれた事が、その後無事卒業できた事、また、実家に戻って仕事をする事になった自分の気持ちの支えになっていたと思います。そういえば、復学したら、ボアソナードタワーが作られていてびっくりしました(笑)。それでも、6大学野球の応援や、サークル活動の思い出もありますし、また、2年生まで、大学に行かない自分を支えてくれ、復学した時には卒業だった仲間とも、今でもSNSを通して、互いの近況報告ができています。現在、鴨川市で、家業でもある鴨川シーワールド内での飲食店の仕事、そして、鴨川市市議会議員として2期、6年目の仕事をさせていただいております。「ダメな自分」「情けない自分」を認め、前に進むしかなかった法政大学での経験は、その後ふるさと鴨川に戻り、商工会や交通安全協会、消防団やPTA活動などの中で、地域の皆さんと一緒に「まち作り」をしてきた自分の原点となっています。

「外房法友会」の中では新参者ではありますが、いただいたご縁を大切に、これからも「法政大学卒」を、自分の誇りとしていきたいと思っています。



(平成14年経営学部卒)

左の写真は今年息子が受験したときのものです